

日本 EU 学会会員の皆様

2015 年 1 月 29 日

日本 EU 学会大会での報告希望(含推薦)および  
『日本 EU 学会年報』への執筆希望の受付

日本 EU 学会・企画委員長  
久保広正

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

日本 EU 学会第 36 回(2015 年度)研究大会は、**2015 年 11 月 21 日 (土) および 22 日 (日)**に**関西大学(千里山キャンパス)**において開催されることになっております。つきましては、共通論題および自由論題(経済、法律、政治・社会分野等)についての研究報告希望ならびにご推薦をお願い申し上げます。

また『日本 EU 学会年報』第 36 号への執筆希望もあわせて受け付けます。

尚、2014 年 11 月 8 日に開催された理事会に置きまして、企画委員会の内規が改正され、研究大会のプログラム等については企画委員会が担当することになりました。それに伴い本文書も企画委員長名で会員の皆様に郵送し、報告希望・執筆希望も企画委員長に直接メールの添付ファイルにて送信して頂くことになりました。また、ネット環境の急変などの不測の事態に備えるために、事務局にも同時送信して頂き、万全を期したいと思っております。別途同封致します申し込み要領で送信先等をご確認下さい。

## 2015 年度研究大会の共通論題と趣旨

### 「EU とアジア - 相互にとっての意味 - 」

このテーマは、2010 年代のヨーロッパと日本の双方の研究者の高い関心事であり、経済、政治、法学などどの学問分野についても、今日の問題意識を反映する報告を期待できます。

経済面でいえば、EU 経済の持続的成長の実現のためにアジアとの通商関係強化が重要であり、他方アジア諸国も経済成長に陰りがみられ、EU との関係強化も肝要となっています。

政治面でいえば、たとえば「EU にとってのアジア、アジアにとっての EU」という相互の意味を探る視点から、EU にとっての ASEM 創設時から今日までのアジアの位置づけの変化、アジアからも EU をモデルとした地域的協力機構の構想の難しさを痛感して以降の EU の捉え方・位置づけの模索などを描くことは重要と思われまます。

法学面でいえば、EU の価値にもとづく EU の対外活動(その中に国際社会における法の支配の強化も含まれる)がアジア諸国にも一貫性をもって実践されているのかどうか、アジア諸国は EU の「価値」外交を額面通りに受けとって法的実践に反映させているのかなどを論じることとは、経済・政治分野の研究にも新たな視野を提供すると思われまます。

なお、かつて「EU とアジア」を共通論題にしたこともあるので、サブタイトルを付すことにより、これとの区別をしました。

## 研究大会での報告を申込み際の注意点

報告希望を出される場合、以下の点につき特にご注意頂きますようお願い申し上げます。

1. 研究大会での報告は、日本EU学会年報への投稿を前提としてお願いしておりますので、ご了解いただきますようお願い申し上げます。
2. 「年報」は原著論文のための学術雑誌であり、二重投稿は認められておりません。そのため、年報に投稿予定の論文と同じ内容の論文を他の原著論文誌に投稿しないようご注意ください。また、他の原著論文誌に掲載済みもしくは投稿中の論文と同じ内容の論文を「年報」に投稿することもご遠慮ください。
3. 所定期日までに完成原稿の提出がない場合、学会年報への論文掲載のための査読対象になりません（年報掲載資格を失うこととなります）のであらかじめご了承下さい。なお、その場合でも、研究大会での報告は許可されます。

また大学院生会員は、報告希望を出す際に、あわせて以下の書類を提出下さい。

1. 業績リスト(公刊された著書・論文一覧。書式は自由)
2. A4用紙で3枚程度の報告要旨(含参考文献リスト)

## 『日本 EU 学会年報』への執筆希望

学会誌『日本 EU 学会年報』第36号は、研究大会の報告を中心に編集する予定ですが、報告以外の研究論文および書評も掲載したいと考えておりますので、ご執筆のご希望をお知らせいただければ幸いです（なお大会報告は年報への投稿を前提としておりますので、大会での報告希望を出す場合には年報の執筆希望を別途提出する必要はありません）。原稿の締め切りは2015年10月20日（火）とし、字数は、研究論文については20,000字以内（注、参考文献、図表を含む）で、これは研究大会の報告を論文とされる場合も同様です。また書評については4,000字以内（同上）です。

## 採否の決定と提出論文のレフェリー審査

報告者および論文・書評執筆者については、企画委員会で慎重に検討したうえで選定させていただきますが、企画委員会として別途報告者を推薦させて頂く場合もあります。最終的には、本年4月に開催予定の理事会で審議のうえ、決定する予定にしております。そのため、必ずしもご希望に添えない場合もありますので、予めご了解頂ければ幸いです。

また、論文の年報への掲載につきましては、レフェリー制度をとっておりますのでご承知おきください。

完成原稿提出の際には、日本EU学会の「投稿規程」「執筆要領」「レフェリー規程」（学会ホームページおよび年報に掲載）をいま一度ご精読頂きますようお願い申し上げます。

## 報告希望・執筆希望の締切

準備の都合により、別紙「申込要領」に従い、アンケート用紙（ファイルは日本 EU 学会ホームページからダウンロード可能）に必要事項をご記入のうえ、2015年3月6日（金）必着で、添付ファイルにてお送りください。

以上ご案内申し上げます。

敬具